

「明智光秀とドッコイセ」 和田

東京オリンピックが行われる2020年。その記念すべき年に、明智光秀を主演とする大河ドラマ「麒麟がくる」が、オリジナルストーリーで放送されることが決定したそうです。ところで、毎年夏に開催される福知山ドッコイセまつりの「ドッコイセ」って言葉は明智光秀と関係があると皆さんご存知でしょうが、明智光秀が福知山城の修復工事を行った際、人々が石材や木材の運搬時に「どっこいせ」と掛け声をあげながら作業をおこなったとされたものが、カタチをかえ、伝統文化として今も親しまれているそうです。そして、今年もやります！ドッコイセ子供大会！僕も活動させていただいております、福知山商工会議所青年部がメインで企画・運営させていただいています。今年はずっとアツク！！え？どんなイベントするのって？内容はまだなにひとつ決まってません…笑



今さら聞けない 経済用語

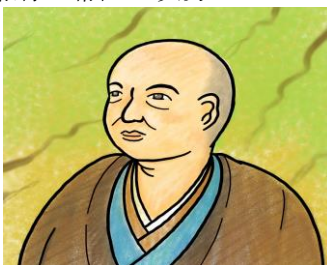
今月の教えてキーワード：【iDeCo（イデコ）】

確定拠出年金法に基づいて実施されている私的年金制度のこと。確定拠出年金は加入者が自ら金融商品などを選び、その運用成果によって将来的に受け取る年金の額が変わる。主に会社が掛け金を拠出する「企業型」と個人が加入する「個人型」があり、iDeCoは個人型の総称。従来、加入対象者が自営業者や一部の会社員に限定されていたが、2017年1月に専業主婦や公務員も加入できるようになり加入者は増加傾向にある。

偉大なる日本の100人に学ぶ 人の心を魅了する生き方。

【豊かな教養で乱世を生き抜く「細川幽齋」】

戦国の混乱を生き抜き細川家を大大名に導いた細川幽齋（ゆうさい）は、織田信長と同じ1534年に生まれました。室町幕府の幕臣の次男として13代将軍・足利義輝に仕え、時に都を追われながらも信長と組んで足利義昭を15代将軍に就任させることに成功します。しかしその後は反信長の姿勢を取る義昭と距離を置き織田家の家臣となったのです。本能寺の変で信長が自害したとき、幽齋の嫡子・忠興と明智光秀の娘・ガラシャは信長の命令で結婚しており、光秀とは長年の戦友でもあったため光秀から応援の依頼が届きます。しかし幽齋は剃髪（ていはつ）し信長に甲意を表すと家督を譲って一線から退くことで光秀には協力しないことを表明します。その後、和歌や連歌など文芸の才があり公家社会にも顔が広がった幽齋は、豊臣秀吉の参謀として力を発揮します。秀吉の死後、66歳で迎えた関ヶ原の戦いでは東軍の家康側につくことを決断。忠興も戦功を挙げ、細川家は東軍の勝利に貢献したのです。結果、細川家は加増により39万石の大大名となり、幽齋の品格と教養の高さは後の当主たちにも引き継がれていきました。権力や金銭への欲はなかったといわれる幽齋ですが、情報収集力と時勢を読む冷静さ、時に冷徹にも見える判断を下すことのできる決断力が、今に続く細川家の伝統を築く礎となったのでしょう。

今を生きる
先人の言葉

努力とは天命と交ざる

啓蒙思想家・教育者である福澤諭吉の言葉。努力とは自覚がないくらい一所懸命に全身全霊をささげること。すると突然、自分の役割や使命が見えてくるのだろう。

トレンドを斬る!

「悟空のきもち」は日本初となるヘッドマッサージ専門店です。独自に考案したもみほぐし技術で、ほぼ全ての人を10分以内に

絶頂睡眠に導きます。幸福感が頂点に達した状態で眠りにつく「寝落ちのタイムマシン」の異名通り、目覚めれば孫悟空の頭の輪っかを取ったときのような爽快感。スタッフは「ヘッドマイスター資格」を持ち、ストレスを抱える現代人に極上の技で究極の癒しを提供します。京都、大阪、東京の5店舗で約20万人が予約待ちというもうなずけます。



365日が楽しくてたまらない! 「商売のヒント」

今月の商売のヒント: 【大満商売より小満商売】

北海道では春の息吹を感じ、沖縄では初夏を迎える5月。日本全国いたるところで体中に力みなぎる季節になりました。5月21日頃は二十四節気の「小満」(しょうまん)にあたります。小満とは、万物に生気が充満し、果実が実り草木が繁るという意味で、自然界の全てのものが次第に満ちてくることから小満といわれます。田畑からの収穫を生活の糧にしていた昔の人にとって、農作物の出来・不出来は死活問題でした。5月の半ば過ぎは前の年の秋にまいた麦などに穂がつく頃。無事に穂がつくと「今のところは順調だ。よかった、よかった」とひと安心(少し満足)したことが小満の由来のひとつだともされています。



ところで、二十四節気には「小暑」に対する「大暑」があり、「小寒」に対する「大寒」があります。しかし「小満」の対になる「大満」はありません。小満が「ひと安心」なら、大満は「心配事が何もない満足しきった状態」とでもなるのでしょうか。自然は慈母のようなやさしい面を持つ一方で、暴君のような怖さも、情け容赦のない厳しさもあります。今よりずっと自然に寄り添って暮らしていた昔の人々は、自然の二面性を肌身でしっかり感じていたからこそ、曆に大満がないのかもしれないと勝手に想像してみました。



話を現代に移しましょう。現代人の小満は「ひと安心の少し満足」ではなく「少々不満」になっているような気がします。今のところは順調でもそれだけでは満足できず、先の先まで順調であろうとしたり不安になったり。待つことを嫌い、結果を先に知りたがり、麦の穂が出るのは当たり前だと思って感謝を忘れてしまう。私たちは知らず知らずのうちに大満を追い求めてきたのではないのでしょうか。

これが仕事であれば日々、何の心配もなく十分満たされた「大満商売」は理想的かもしれませんが。けれど何事も陰陽、表裏一体だと思えば「ありがたい、ありがたい」とひと安心して感謝する「小満商売」でありたいと、薫風に吹かれながら思うのでした。

トナリの

本棚



【旅猫レポート】

映画化された『阪急電車』でも知られる有川浩の小説。愛猫の新しい飼い主を探す旅に出たサトルとナナの物語です。猫の視点で語られるコミカルで温かい2人の絆。Last-Reportが感動的で「今を大切にしよう」と思わせてくれる名作です。

船越税理士事務所

〒620-0054

京都府福知山市末広町1-1-1 中川ビル3階

TEL:0773-22-3708 FAX:0773-22-7343

<http://www.f-office301.com>

E-mail: info@f-office301.com

皆様のご感想をお待ちしております ☺☺☺☺☺☺